

タイ東北部の後期新生代哺乳化石の年代と堆積環境

Sedimentary environments and Age of the Late Cenozoic Mammalian Fossils from Northeastern Thailand

仲谷 英夫[1], 三枝 春生[2], 長岡 信治[3], 國松 豊[4], 田中 里志[5], Banjavun Ratanasthien[6]

Hideo Nakaya[1], Haruo Saegusa[2], Shinji Nagaoka[3], Yutaka Kunimatsu[4], Satoshi Tanaka[5], Banjavun Ratanasthien[6]

[1] 香川大・工・地球環境, [2] 姫工大・自然環境研, [3] 長崎大・教育・地理, [4] 京都大・霊長研, [5] 京大・地学, [6] チェンマイ大・理・地質科学

[1] Earth and Environmental Sci., Kagawa Univ., [2] Institute of Natural and Environmental Sci., Himeji Institute of Technology, [3] Dep.Geography,Fac.Education,Nagasaki University, [4] PRI, Kyoto Univ., [5] Earth Sci., Kyoto Univ. Edu., [6] Geological Sci.,Chiang mai Univ

タイの哺乳類層序に関してはフランス-タイ共同調査により、後期新生代哺乳類化石産地の年代は初期中新世から中期中新世とされていた。筆者らは1996年から2002年にかけてタイの北部と北東部で哺乳類生層序の再検討を進め、タイ北部で新たに中期中新世末と後期中新世の前期の哺乳類動物群があることを明らかにした。中期中新世末のChiang Muan炭鉱では東南アジアの新第三紀で初めてのヒト上科臼歯を発見した。Sop Mae Thamからも東南アジアで初めてのウマ科・長歯型のHipparionini族を発見した。

従来より、タイ北東部のNakhon Ratchasima (Khorat) 近郊Tha Changの10ヶ所近い砂採取場(Sand Pit)からは多くの脊椎動物化石が発見されることが知られていた。しかし、化石は建設用骨材として砂を採掘する過程で採集されており、地元などに保存されている化石には採集地点・層準・採集日・採集者などの基本的なフィールドデータが残されておらず、標本も幅広い時代のものが含まれていたため、段丘堆積物中の再堆積化石ではないかと考えられていた。

そこで、これらの化石のうち長鼻類やサイ科、ウマ科やイノシシ科、ウシ科などの同定を進め、ユーラシアの他地域の哺乳類生層序との比較を進めたところ、少なくとも中期中新世、後期中新世末、前期から中期更新世など複数の群集が含まれていることが分かった。中期中新世の哺乳類動物相としては長鼻目のcf. *Protanancus chinjiensis*, *Gomphothium* sp., *Prodeinotherium* sp.が、後期中新世末を示すものとしては長鼻目の*Stegolophodon* cf. *stegodontoides*, 原始的な*Stegodon* sp., 奇蹄目ウマ科の*Hipparion* sp., 偶蹄目アントラコテリウム科の*Hemimeryx* / *Merycopotamus* sp., イノシシ科のcf. *Hippopotamodon* sp.が、前期から中期更新世のものとしては長鼻目の派生的な*Stegodon* sp., *Elephas* sp.が認められた。

これらの標本の同定作業と現地での地質調査をもとに、ラジャバット大学・人文社会学部・地理学教室に保存されている脊椎動物化石の標本カタログを整備した。

さらに、操業中の砂採取場において発掘調査をおこなった結果、*Stegolophodon* (長鼻目)の臼歯および原始的な*Merycopotamus* (偶蹄目・アントラコテリウム科)のほぼ完全な頭蓋を地層中から発見した。ラジャバット大学などに保存されている化石の保存状態は極めてよく、また、円磨されておらず、段丘堆積物中の再堆積化石ではなく、そのほとんどは地層中にin situで含まれていた可能性が大きいことが分かった。

これらの化石の埋没過程は検討中であるが、操業中の砂採取場の地質調査から、これらの哺乳類化石は何らかの堆積イベントにより急速に埋没したと思われる。このような堆積イベントは東南アジアでの何らかの後期新生代における環境変動を反映しているとも考えられる。また、哺乳類化石群集をさらに精査すれば、三つ以上の時代に分けられる可能性が高く、今後、哺乳類化石の系統分類学的並びに堆積環境の解析が重要である。Tha Changの砂採取場から産出した化石はタイ全土に散らばって保存されており、それらの調査も必要である。